

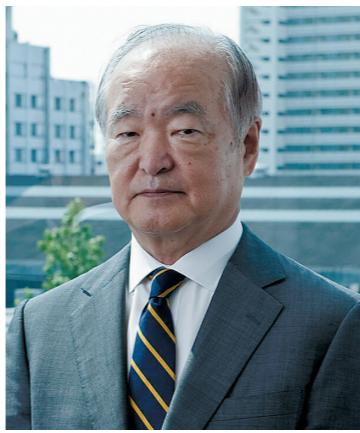
# 現場力活かし「物流革命」に挑戦 企業活動リアルタイムでサポート

日本のトラック輸送産業は国内物流の基幹的役割を果たしている。その市場規模は約15兆円で、生活と経済のライフラインとして不可欠な存在であり、東日本大震災など自然災害に際しては機動力を発揮し、大量の緊急支援物資の輸送を担う。本県

を代表する企業である第一貨物株は、全国に広がるネットワークを生かし、付加価値の高い物流サービスを展開・創造している。武藤幸規代表取締役社長（75）に今後の展望などについてインタビュー。武藤社長は「多様化、高度化、効率化、I O

Tへの適応など物流革命に社員一体となって全力で取り組み、お客様の仕事を物流面からサポートしていく」と強調し次のように語った。  
《創業から昭和26年頃まで》  
当社は昭和16年3月に山形合同貨

物自動車株として設立し、当時公布された陸運統制の下、翌年3月に16社が合併して「山形県第一貨物自動車株」に商号を変更しました。第二次世界大戦の真つただ中であつて、昭和19年には10営業所、6出張所を構え、主に寒河江、谷地等の県内陸部の輸送を担っていました。



武藤 幸規 代表取締役社長

慶応大学商学部卒。ブリヂストンタイヤ（現・ブリヂストン）などを経て1977（昭和52）年、第一貨物自動車（現第一貨物）取締役に。専務、副社長を歴任し88（昭和63）年に代表取締役社長に就任。東京都出身。500年ほど前、羽黒の別当職で鶴岡市大山の尾浦城主であつた武藤家を先祖とするといわれて、江戸時代は庄内藩主酒井家に仕えている。元日銀理事安斎隆氏に影響を受ける。



## 第一貨物株

設立	1941（昭和16）年3月15日
資本金	1億円
従業員	4,255人（2019年3月末現在）
売上高	749億24百万円 （2019年3月期）
本社	〒990-0033 山形市諏訪町2-1-20 ☎023-623-1414（代表）

（ロゴの「D」と「K」はダイナミックなスピード感と信頼感を表現）

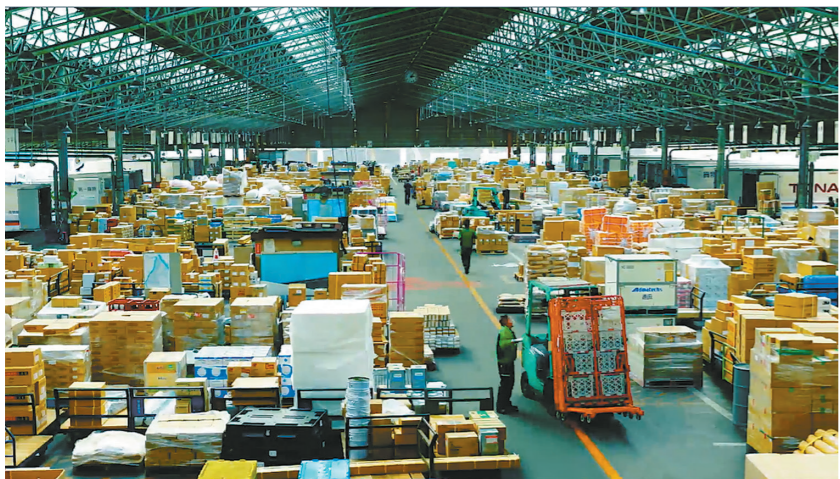
戦後の昭和26年に仙台と東京間の路線免許が認可されたのを機に東京支店を新築、これが足掛かりとなり、現在の長距離輸送・ネットワークが構築されていきます。当時の数少ない資料の中から東京にありました深川営業所の写真を見ますと、東京から東北に向う荷物が、荷台からあふれんばかりに積み込まれております。顧客の要望に応えられないほどの輸送ニーズで、戦後の復興を一枚の写真は物語っています。



企業活動をリアルタイムで支える物流の拠点・東京支店ターミナル（東京都江東区東雲）



スピード感と信頼で全国を走行



全国から送られる貨物を管理・保管する東京支店

《全国に広がるネットワーク》  
昭和30年代に入りますと、日本の高度成長に支えられて、事業網の拡大が飛躍的に進みました。特に昭和34年に東京と大阪間の路線免許が認可され、東北から初めて関西に進出した際は周囲から大きな反響がありました。  
急速に経済交流が拡大した時期であり、東海道沿線の工業生産額は全国7割、物量は2分の1を占め、しかも上り便・下り便の物量が同程度であったことにより、東海道は「ゴールデン・ロード」と称されていたとの記録もあります。  
しかし、その頃は高速道路等のインフラは整っておらず、国道4号線の福島・栃木の県境付近の坂道はアスファルト舗装がされてなく、雨が降れば道路はぬかるみ、たくさん荷物を積んだトラックがいったん止まってしまうと、容易に抜け出すことができなくなるほど困難な運行だったそうです。昭和40年に名神高速道路、44年に東名高速道路が全面開通し、日本の主要都市を貫く大動脈ができ、トラックによる本格的な大量輸送時代が到来、当社も拠点となるターミナル施設を意欲的に新設しました。  
（次ページに続く）